



農村モデル図書館

図書貸出率日本一へ



農村モデル図書館開館（昭和40年）

昭和39年、置戸町に農村モデル図書館が設置されました。日本における図書館は大都市に発達し、町村にはほとんど開設されていなかったため、文部省では全国に8つの農村モデル図書館の実現をと昭和37年に計画を策定。「北海道に1ヶ所割当てがあって、将来の市町村図書館のモデルになるような図書館建設が目的なので、置戸に建てませんか」と、当時の阿部重美町長に、道教委の社会教育課長が話をもちかけたといいます。阿部町長は二つ返事でこれを引き受け、文部省にも猛運動を展開。指定を受けるのにふさわし条件が置戸にはあったからでした。

「置戸町立図書館」の前身は、昭和23年に小林猛雄氏を中心につくった青年読書会です。活字に飢えていた青年約30人が、読書会の根城として公民館設置を要望し実現させると、ここに数百冊の本を寄贈して公民館図書室を開設。昭和28年より山川精司書を迎えて、図書館法に基づく公立図書館として活動を高めていきました。

新図書館は、旧置戸小学校跡に380m²の面積で、鉄筋コンクリート造により建築されました。同時に、農家の軒先まで本を届ける移動図書館車が入り、月に1~2回の巡回が開始されました。落成を記念して約2千冊の本が購入され、既存のものとあわせて6千冊の蔵書で貸し出しが開始されました。置戸の公民館・図書館が青年読書会の活動によってスタートが切られたように、農村モデル図書館もまた、新しく迎えた澤田正春司書を中心とする職員や、多くのボランティアの協力によって好調に滑り出しました。

小林猛雄館長は「最も忙しい第一線の産業人になくてはならぬアドバイザーの役を果たしたい。地域開発のセンターたらんというのが本館第一の使命であり、さらに児童センターの役も果たしたい」と説き、のちに住民1人当たりの図書貸出率日本一を保持した図書館活動の幕開けとなりました。

(参照：置戸町史下巻)

お気軽にご相談ください

民生委員・児童委員を紹介します

民生委員・児童委員は、地域の中で、福祉全般にわたり相談や支援を行っているボランティアです。児童委員は民生委員が兼ねています。

厚生労働大臣からその任務を委嘱されており、守秘義務がありますので、相談内容や個人の秘密が他に漏れることはありません。

安心してお気軽にご相談ください。

【詳細】

地域福祉センター福祉係（☎52-3333）

置戸町民生委員・児童委員名簿

住 所	氏 名	担当地域
秋 田	鈴 木 千 鶴	秋田
境野中央	鈴 木 喜代子	境野中央・境野旭・境野親交
境 野	中 川 隆 博	境野・川南・常盤
豊住第二	長 田 保	豊住第一・豊住第二・北光・北光第二
新 光	鈴 木 るみ子	若松・新光
栄 第一	菅 原 治 司	緑栄・栄第一・心和
協 生	飯 田 優 子	協生・宮下
西 町	植 野 トミ子	中央・本町・西町
若 木	岡 山 博 行	若木・林友の一部(常呂川東側)
拓 殖	高 西 ヒロコ	拓殖・林友の一部(常呂川西側)
拓 実	村 中 さち子	拓殖第二・拓実・中里
勝山公新	木 村 栄	勝山新生・勝山公新
勝山第一	大 槻 健一郎	安住・勝山第一・常元
新 光	上 野 志 女	全町(主任児童委員)
林 友	小野垣 道 子	全町(主任児童委員)